スズキ電気大正琴

TAS-11

桂

——かつら——

取扱説明書

この度はスズキ大正琴「桂」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品を安全に、そして末永くご使用いただくため、この取扱説明書をよくお読みください。お読みになった取扱説明書は、なくさないように大切に保管してください。

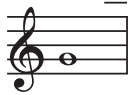
SUZUKI

目次

仕様 …… 1
使用上のご注意 …… 2
各部の名称 …… 3
音階ボタンと音域 …… 4
調絃のしかた …… 5
譜の読み方 …… 7
奏法と記号 …… 8
弾き方 …… 9
アンプへの接続と取り扱い …… 10
アンプの紹介 …… 11

※最終ページに保証書を添付しております。

大正琴「桂 TAS-11」仕様

機種名	音域	絃	付属品	寸法	重さ
桂	27鍵 5～6 第一絃～第三絃の音域 （第四絃は1オクターブ低くなります。） ※第五絃についてはP5をご覧ください。	第一絃 第二絃 } 共通 細線 第三絃 第四絃 細巻線 第五絃 太巻線	セミハードケース ピック 調子笛 クロス 接続コード 予備絃 （細線一本、細巻線一本）	（幅×奥行×高さ） 73×15×8cm	本体 1.5kg ケース 1.2kg

使用上のご注意

必ずお読みください。

水・湿気は大敵です

水分や湿気の多い場所では、絶対に使用・保管しないでください。故障の原因となります。

熱くなる場所を避けてください

自動車の中や暖房器具のすぐ近くなど、極端に熱くなるところでの使用・保管は避けてください。変形・故障の原因になることがあります。

ホコリっぽい場所は避けてください

ホコリの多いところでの使用・保管は避けてください。故障の原因になることがあります。

衝撃を与えないでください

楽器をぶつけたり、落としたりしないでください。製品に傷を付けるだけでなく、故障の原因になります。

不安定な場所に置かないでください

楽器を不安定な場所に置かないでください。転倒・落下をして思わぬケガをする危険があります。

調絃時は顔を遠ざけて

絃の張り替えや調絃のときは楽器に顔を近づけすぎないようにしてください。万一絃が切れますと、顔や目を傷つける恐れがあり危険です。

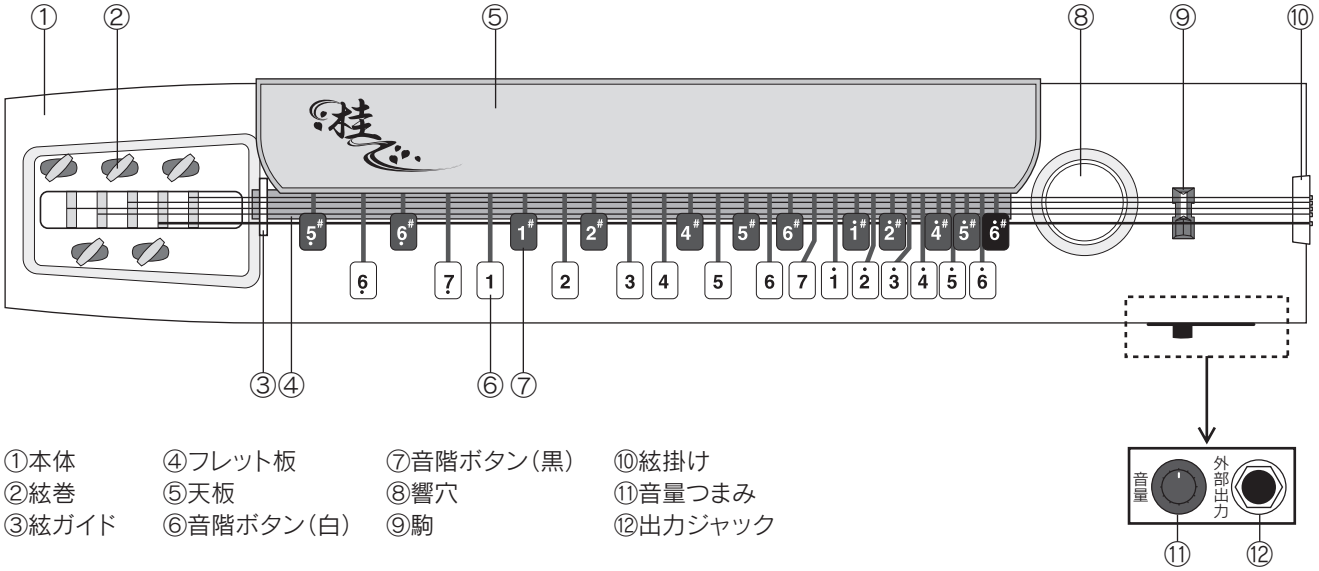
絃で手を傷つけないように

調絃や張り替え・お手入れのとき、絃の先端で手や指などを傷つけないように気をつけてください。

お手入れはやわらかい布で

お手入れはやわらかい布でカラ拭きしてください。アルコール・シンナー・ベンジン等は製品を傷めますので絶対に使用しないでください。

各部の名称



①本体　④フレット板　⑦音階ボタン（黒）　⑩絃掛け
②絃巻　⑤天板　⑧響穴　⑪音量つまみ
③絃ガイド　⑥音階ボタン（白）　⑨駒　⑫出力ジャック

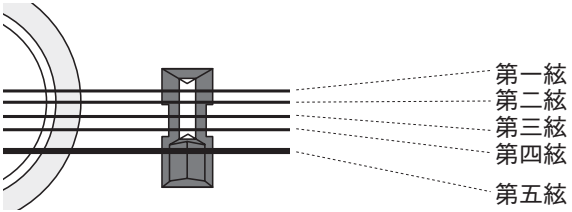
付属品

セミハードケース・ピック
調子笛・クロス・接続コード
細線（1本）・細巻線（1本）

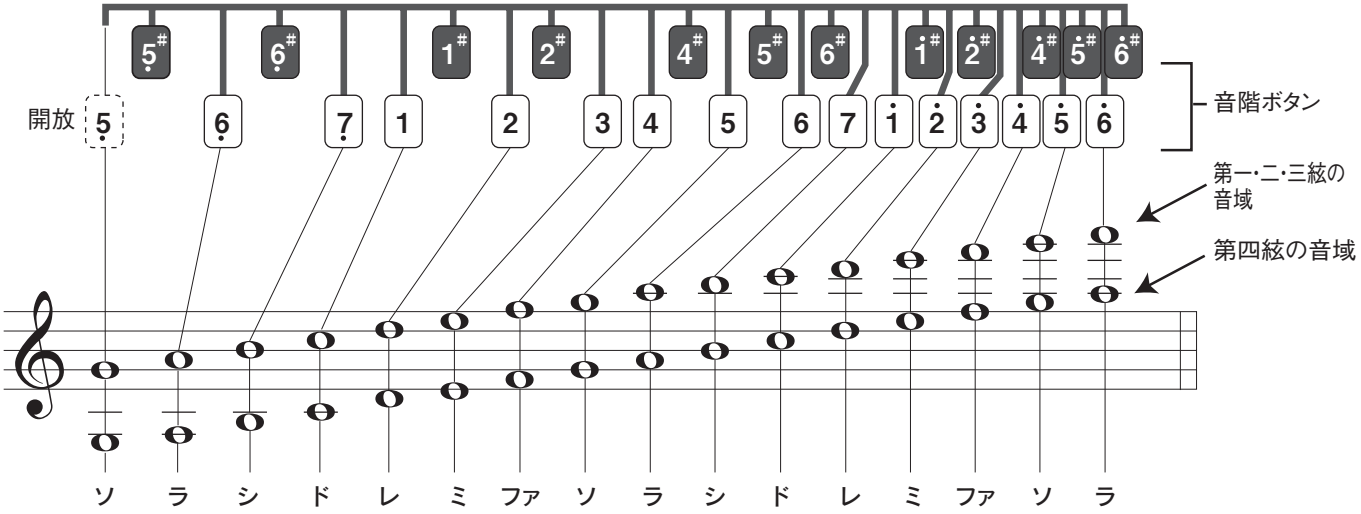
音階ボタンと音域

桂の各絃の名称及び音階ボタンの音は以下のようになっています。

■ 各絃の名称



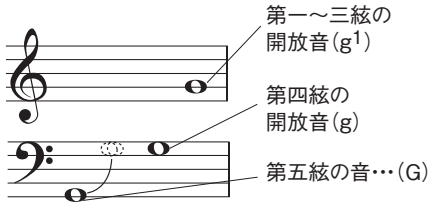
■ 音階ボタン



調絃のしかた

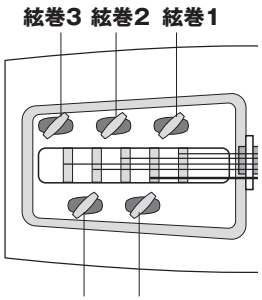
演奏の前に調絃をします。付属の調子笛を使って調絃します。調子笛は **(ソ、g¹音)**の音になっています。
調絃は、各絃とも全て開放(ボタンを押さえない)状態で行います。
絃巻きは時計回りに回すと音程が上がり、反時計回りに回すと下がります。
※スズキ大正琴チューナーST300s(以下チューナー)等を用いると調絃がより容易にできます。

【各絃の開放音】



【絃巻】

絃巻1…第一絃の絃巻
絃巻2…第二絃の絃巻
絃巻3…第三絃の絃巻
絃巻4…第四絃の絃巻
絃巻5…第五絃の絃巻



■ 調絃の手順

1. 第一絃を **(ソ、g¹音)の音に合わせます。**

調子笛を鳴らしながら、もしくはチューナーを見ながら、ピックで第一絃をはじき、第一絃が「**g¹**」の音になるよう、絃巻1を回して、音を調節します。

2. 第二絃、第三絃を第一絃と同じ音に合わせます。

第二絃・第三絃をピックではじき、第一絃と同じ音になるよう、それぞれ絃巻2、絃巻3で調節します。第一絃の音と比較しながら音を合わせます。

3. 第四絃を第一絃〜第三絃よりも1オクターブ(8度)低い音に合わせます。

第四絃をピックではじき、第一絃〜第三絃より1オクターブ低い音(ソ・g)になるよう、絃巻4で調節します。

4. 第五絃(ベース絃)を第四絃よりも1オクターブ(8度)低い音に合わせます。

第五絃をピックではじき、第四絃よりさらに1オクターブ低い音になるよう、絃巻5で調節します。ただし第五絃は曲目などに応じ で示した範囲内で調節していただけます。

調絃のしかた

■ 調絃に関してのお願い

絃は張っておくと、わずかに伸びて音程が低くなりがちです。
当社では調絃を完了済みで出荷していますが、お買い上げ時には、音程を確認し、再調絃してください。

第五絃の調絃は、演奏する曲目に合わせ、調子を変えると、効果があがることがあります。
あまり音程を上げすぎると絃が切れるおそれがありますので、 （5ページ【各絃の開放音】図）で示した範囲で調絃されるようお願いいたします。
なお の範囲より高い音程で使用される場合は、第五絃を第四絃と同じ絃に取り替えて演奏してください。
絃は消耗品です。さびたり、伸びきったり、切れかかっていますと、音程が狂い、音色・音質も悪くなります。
その時は早めに専用絃に取り替えてください。※

※柱は「琴城流大正琴　瑞穂（みずほ）」の音色を継承した大正琴として生まれました。そのため「柱」は「瑞穂」と全て同じ絃を採用しています。
これらの絃は、従来の絃よりも細くなっており（ライトゲージといいます）、より伸びのある繊細な響きを生み出しています。

譜の読み方

大正琴の楽譜は、「数字譜」と言い、「ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ド」は「**1・2・3・4・5・6・7・$\dot{1}$**」と表します。
音符と休符は下表のようになっています。下表では**1（ド）**の音で記入してあります。

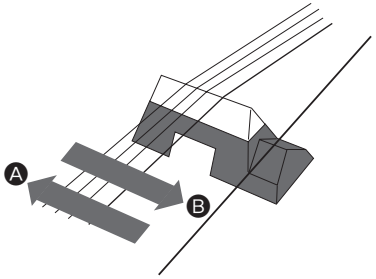
音符（音の長さ）は**1～7**の数字1つを1拍とし、－、＝、**$\bar{0}$**などの記号との組み合わせで表します。
休符は**0**を1拍として、**$\underline{0}$**、**$\underline{\underline{0}}$**、**$\underline{0}$-**、**0-**などの記号で表します。

四分音符を1拍と数えた場合の表

拍数	音 符	大正琴の音符	休 符	大正琴の休符
4 拍	全音符	**1 $\bar{0}$ $\bar{0}$ $\bar{0}$**	全休符	**0 0 0 0**
2 拍	二分音符	**1 $\bar{0}$**	二分休符	**0 0**
1 拍	四分音符	**1**	四分休符	**0**
$\frac{1}{2}$ 拍	八分音符	**$\underline{1}$**	八分休符	**$\underline{0}$**
$\frac{1}{4}$ 拍	十六分音符	**$\underline{\underline{1}}$**	十六分休符	**$\underline{\underline{0}}$**
3 拍	付点二分音符	**1 $\bar{0}$ $\bar{0}$**	付点二分休符	**0 0 0**
1 拍半	付点四分音符	**1-**	付点四分休符	**0-**
$\frac{3}{4}$ 拍	付点八分音符	**$\underline{1}$-**	付点八分休符	**$\underline{0}$-**

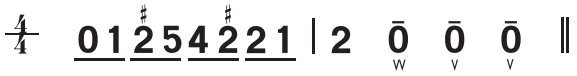
補足） 数字譜には♭の表記がなく、全て＃におきかえます。

奏法と記号



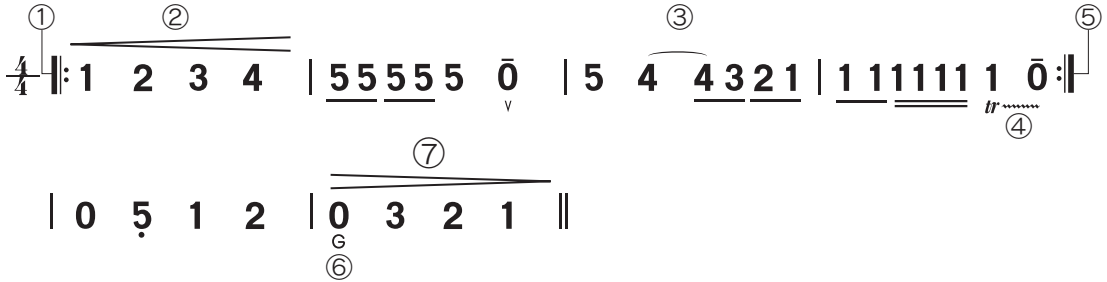
大正琴は、音階ボタンの数字を譜に書いてあるとおりに押して、ピックで絃をはじいて曲を弾きます。絃をはじく方向は原則として、手前から向こう側です。Ⓐ
曲によっては、Ⓑのように向こうから手前に弾く「かえし弾き」という弾き方をすることがあり、楽譜では「V」で表します。その他の記号については下の例を参考にしてください。

［かえし弾きの例］



2の音で2拍目に2回（22という音）、3拍目、4拍目に1回ずつかえし弾きをおこないます。

［その他の記号例］



①反復記号
②クレッシェンド（だんだん強く）
③タイ（同音をつないでのばす）
④トレモロ（Ⓐ と Ⓑ を早く繰り返して弾く）
⑤反復記号（①までもどり、繰り返して弾く）
⑥第五絃を弾く
⑦デクレッシェンド（だんだん弱く）

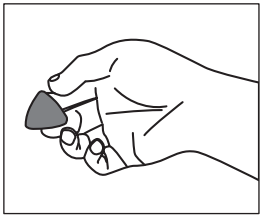
弾き方

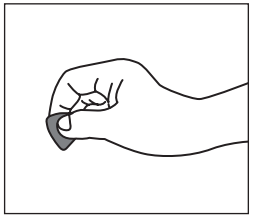
■ 演奏の姿勢

背筋を伸ばし、ゆったりと自然な形でかまえます。
目安として自分の右肩と大正琴の右端が揃うように置きます。
左手の親指が中央部「**5**」のボタンを無理なく押さえられる位置にします。
大正琴の左端をやや斜めにします。(体からやや前方に離します)

■ ピックの持ち方

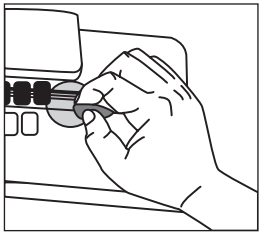
右手ひとさし指と中指の上にピックをのせ、その上に親指を軽く当てて押さえます。ピックの先が真下を向くようにします。ピックを持つ指の位置が自然な状態になるようにしましょう。

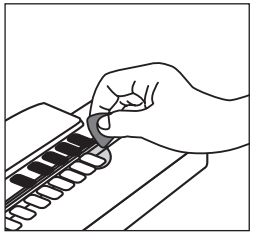




■ 手の位置とピックの当て方

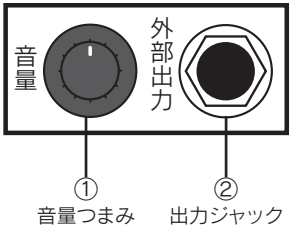
右手首を大正琴本体の右端手前に軽くのせ、ピックの位置が絃の上にくるようにします。ピックは絃に対して直角に当たるようにします。

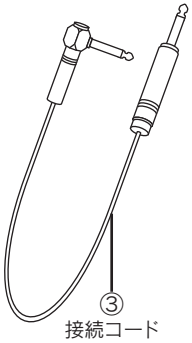




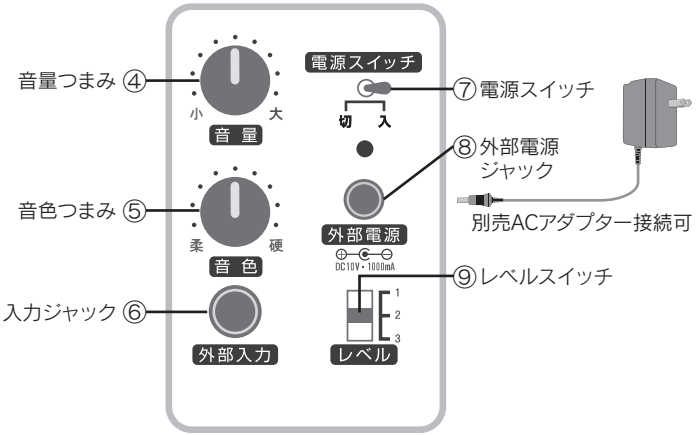
アンプへの接続と取り扱い

［大正琴 柱］





[大正琴アンプ SA-35の場合]※1



【操作手順】

1.柱の出力ジャック②と使用するアンプの入力ジャック⑥を大正琴付属の接続コード③で接続します。
2.アンプの外部電源ジャック⑧に別売ACアダプターを接続し、ACアダプターを100Vコンセントに差し込みます。※2
3.アンプの電源スイッチ⑦を入れます。
4.レベルスイッチ⑨を「2」に設定します。
5.大正琴の音量つまみ①を最大にし、試奏をしながら音が歪まない位置へアンプ側の音量つまみ④を調節してください。
次に大正琴の音量つまみを少し戻して音量を調節してください。(演奏中での音量調節は、大正琴の音量つまみを使用してください。)
6.好みによりアンプの音色つまみ⑤で音色を調節してください。

※1　大正琴アンプは別売となります。
※2　アンプを乾電池で使用する場合には必要ありません。この時、乾電池の寿命が近いと音が歪みます。そのような場合には新しい乾電池と交換してご使用ください。また、アンプをACアダプターで使用する場合、電源プラグの差し込み方向により、「ブーン」というノイズが入ることがあります。そのような場合は、電源プラグの差し込み方向を逆にしてみてください。

アンプの紹介

「柱」は電気式ですので外部アンプに接続することができます。以下が「柱」に対応するアンプとなっております。

	SA-35/35T	SA-65※1/65T	SPA-40	SPA-40R	SPA-150R-L SPA-150R	レスリー2121
コントロール	音量・音質	音量・音質	音量・音質	音量・音質・リバーブ	音量・音質・リバーブ	音量・音質
ジャック	入力	入力	入力1・2 ライン出力	入力1～4 ライン出力	入力1～4 ライン出力	入力1～3 (マイク1・ライン2) ライン出力
電源	DC9V (AC100Vアダプタ別売)	DC9V (AC100Vアダプタ別売)	AC100V	AC100V	AC100-240V	AC100V
出力	3.5W※2	6.5W※2	40W	40W	150W	低音部150W 中高音部50W
消費電力	6.8W	10.9W	30W	33W	45W	190W
寸法 (幅×奥行×高さ)	8.5×12.5×21cm	8.5×12.5×21cm	24×22×32cm	24×22×32cm	32×31×62cm	51×50×76cm
重量	0.8kg/0.85kg (SA-35)(SA-35T)	0.83kg/0.88kg (SA-65)(SA-65T)	6.8kg	7kg	15kg	39kg

※1 現在SA-65の生産はしておりません。(2013年1月1日現在)
※2 専用ACアダプターAD1-1010(別売)使用時の出力です。乾電池使用時は電池の消耗などで出力は低下します。

■ 複数の柱を接続する場合

発表会等で、複数の柱をアンプに接続する場合には、ダイレクトボックスDB-2(別売)をお使いください。

株式会社 鈴木楽器製作所
〒430-0852 静岡県浜松市中区領家2-25-12 ☎(053)461-2325

メールでのお問い合わせは下記まで
info@suzuki-music.co.jp

3101-5C-APR-MM-127-D
00457-30031